

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	皮膚悪性腫瘍	
	タイプ	メラノーマ	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Significance of dermoscopic patterns in detecting malignant melanoma on acral volar skin: Results of a multicenter study in Japan	
	論文の日本語タイトル	肢端無毛部皮膚のメラノーマの検出におけるダーモスコピーパターンの意義：日本における多施設共同研究の結果	
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドライン上での目次名称		
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー／メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） V. 記述研究（症例報告やケースシリーズ） VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見（IV）	
	Pubmed ID	15492186	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Arch Dermatol	
	雑誌 ID		
	巻	140	
	号	10	
	ページ	1233-8	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)	
	発行年月	2004 Oct	
	著者情報		氏名
筆頭著者		Saida T	Dept. of Dermatol, Shinshu Univ. School of Med., Japan
その他著者 1		Miyazaki A	同上
その他著者 2		Oguchi S	同上
その他著者 3		Ishihara Y	同上
その他著者 4		Yamazaki Y	同上
その他著者 5		Murase S	Dept. of Medical Informatics, Shinshu University School of Medicine, Japan
その他著者 6		Yoshikawa S	Dept. of Dermatol, Saitama Medical School, Japan
その他著者 7		Tsuchida T	同上
その他著者 8		Kawabata Y	Dept. of Dermatol, Faculty of Medicine,

			University of Tokyo, Japan
	その他著者 9	Tamaki K	同上

一次研究の 8 項目	目的	掌蹠のメラノサイト系病変でみられる定型的なダーモスコピーパターンの診断学的意義を検討	
	研究デザイン	症例対照研究	
	セッティング	大学病院	
	対象者	3 大学で 2000 年までにダーモスコピー検査が行われた掌蹠のメラノーマ 103 病巣（うち 36 病巣は in situ 病変）と色素細胞母斑 609 病巣（後天性 453 病巣、先天性 156 病巣）	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず（1）	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず（3）	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず（22）	
	介入（要因曝露）	ダーモスコピー検査	
	エンドポイント（アウトカム）	エンドポイント	区分
	1	掌蹠のメラノーマの特徴的ダーモスコピー所見とされる parallel ridge pattern と irregular diffuse pigmentation のメラノーマ診断における感度、特異度などの検討	1.主要 2.副次 3.その他（1）
	2	掌蹠の母斑の特徴的ダーモスコピー所見とされる parallel furrow pattern や lattice-like pattern などの母斑診断における感度、特異度などの検討	1.主要 2.副次 3.その他（1）
	3		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	4		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	5		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
6		1.主要 2.副次 3.その他（ ）	
7		1.主要 2.副次 3.その他（ ）	
8		1.主要 2.副次 3.その他（ ）	
9		1.主要 2.副次 3.その他（ ）	
10		1.主要 2.副次 3.その他（ ）	
主な結果	1) parallel ridge pattern が掌蹠のメラノーマを検出する感度は 86%、特異度は 99%、陽性期待値 93.7%、陰性期待値 97.7%、診断精度 81.7%であった。Melanoma in situ の段階でも感度 86%、特異度 99%であった。 2) irregular diffuse pigmentation が掌蹠のメラノーマを検出する感		

		<p>度は 85.4%、特異度は 96.6%、陽性期待値 80.7%、陰性期待値 97.5%、診断精度 71%であった。Melanoma in situ では感度 69.4%、特異度 96.6%であった。</p> <p>3) parallel furrow pattern または lattice-like pattern が母斑を検出する感度は 67.2%、特異度 93.2%、陽性期待値 98.3 であった。</p>
	結論	<p>ダーモスコピーは掌蹠のメラノーマと母斑の診断にきわめて有用であり、とくに parallel ridge pattern は掌蹠メラノーマの早期検出に役立つ。</p>
	備考	
レビュワーコメント	レビュワー氏名	齋田俊明
	レビュワーコメント	<p>エビデンスのレベル分類 (IV)</p> <p>掌蹠のメラノサイト系病変の診断におけるダーモスコピーの有用性を多施設の多数の病変によって証明した研究。</p>